

令和3年度 大阪府立旭高等学校 第1回学校運営協議会

日時：令和3年6月28日（月） 午後2時30分～午後4時

場所：本校会議室

委員：

会長	森 勇太	関西大学 准教授
副会長	辰巳 千佳子	大阪市立旭陽中学校 校長
	梅原 直人	大阪市立高殿小学校 校長
	佐藤 章子	平成30,31年度PTA副会長、旭友会
	上江洲 弥生	令和2年度PTA会長、旭友会
	寺前 里美	令和3年度PTA副会長

1. 校長挨拶 省略

2. 委員自己紹介・事務局自己紹介

出席委員全員の賛同により、森 勇太委員を会長に、辰巳千佳子委員を副会長に選出

3. 今年度の学校経営目標と現状報告（校長）

現状報告

○この春の卒業生については、高大連携改革初年度であったが、最後まで諦めず希望の進路を勝ち取った生徒が多かった。指導の良かった点を、今後も継続していければと考えている。

○学校経営計画の中期的目標として、「確かな学力の育成」、「豊かな心・社会人基礎力の育成」、「学校の特色づくりと組織力の向上」の3つの柱に関しては、今年度も継続していく。

○コロナ禍ではあったが、「学校に行くのが楽しいという生徒」が増加している（学校教育自己診断 R1年度77.9% R2年度80.7%）。その期待に応えていかなければいけないと思っている。

○部活動の加入率の低さが心配である。昨年度、新入生が高校生活スタートの4、5月に休校期間であったため、部活について十分に周知ができていなかったり、仮入部ができていなかったりしたことが要因か。

○コロナ禍という状況もあり、行事への取組みや地域連携活動が十分にできなかった。

今年度の学校経営計画

○今年度の学校経営計画では、「めざす学校像」の中に「社会人基礎力」も加えた。中期的目標の3本柱に変わりはなく、3番目の「学校の特色づくりと組織力の向上」の（1）では、「よりよい旭」から「旭で伸ばす」という表現に変更している。

○「旭で伸ばす」は授業については他の教員の授業を見学する等研鑽に努めること、また、観点別評価の準備として、様々な学びを評価できるように準備を進めている。そして、深い学びにつながるよう、探究活動についても、これまで以上に発表活動に力を入れている。「旭で伸ばす」ことができるように、今年度のカリキュラムから一部取り入れている。

○進路などの情報提供をしっかりと行いつつ、生徒の力を伸ばしていければと考えている。

○老朽化に伴い、トイレを始め、設備面については、修繕に追われている。先日も雨漏りがあり、調査を実施し対応した。また、生物実験室の床面の中央が若干へこんでおり、安全面で心配をしたが、教育庁の調査では安全性には問題がないとの説明を受けている。

4. 各分掌の取り組み（学校側事務局員）

(1)進路指導部

・進路指導スケジュール…ほぼ例年通りであるが、1・2年生の2学期11月に外部模試（平日）受験日を設定

した。例年の春、夏、冬季に加えて秋季にも追加した。

- ・現3年生の進路希望調査、昨年度3年生の進学状況についての説明。
- ・取り組むべき課題としては、進路意識の向上、家庭学習の徹底、外部模試を活用し定期的に自らの学習を振り返ることができる環境づくりなどが挙げられる。
- ・大学等の予約奨学金については、年々利用する生徒が増えている状況である。

(2)生活指導部

- ・生活習慣の確立に力を入れており、年々遅刻者数が減ってきている。
- ・部活動…大会やコンクールに向けて、各部とも頑張っている。
- ・学校行事…体育祭は、時期を延期したが、熱中症予防の観点から府立体育館で7月19日に行なう予定である。遠足も延期とし、9月24日（金）実施予定である。

(3)保健部

- ・保健室来室状況について説明。例年5月6月は行事関係での友人トラブルで来室する生徒が多いが、今年度は行事の時期がずれているため、来室者が減っていると考えている。また、月経痛のひどい生徒の来室が増えている。内科症状では、発熱などの症状があれば、長時間保健室に滞在させず、早退をさせている。

(4)図書教養部

- ・国際交流が難しい状況であり、毎年7月に来日する新規留学生が今年度はなし。（姉妹校の交流も中止）
- ・語学研修ができない代わりに、インテンシブ講座を実施する予定。また、オーストラリアの姉妹校や韓国の学校とオンラインでの交流を行っている。

(5)情報部、ならびにオンライン授業PTの取組みについて

- ・本校のオンライン授業についての説明。（生徒1人1人にアカウントを配布し、Google クラウドを運営）
- ・iPadで動画を録画し、授業の動画を配信することで、コロナ関連で出席停止になっている生徒の学びをサポートしている。
- ・今秋、1人1台生徒にタブレットの配布が予定され、その設定や取り扱いについて検討中である。

(6)渉外調整委員

- ・昨年度はほとんどできなかったPTAの活動を、今年度は対策を講じながら出来るだけ実施したい。ライデンメールでPTA活動の広報に力を入れている。

(7)1学年より

- ・本年度は、例年より1クラス減の7クラス280人でスタートした。「学習習慣の確立」を、学年として重点的に指導している。
- ・クラブの入部時期である4月中下旬に、緊急事態宣言となり部活動がストップしたことが影響しているのか、クラブの入部が少ないのが残念。
- ・現在は、文化祭のクラスの出し物をクラス一丸となり作り上げているところである。

5. 協議、提言（司会：協議会会長 ●委員 □学校側事務局員）

●：昨年の3年生が頑張っていたという進路の結果に、先生方の尽力があったと思うが、先生方がどのように働きかけ、どのように目標に近づいてきたか、もう少し詳しく教えてほしい。

□：外部模試について、例年ならば公開会場で受験させていたが、昨年度は公開会場での受験の人数や日程に制限があったので、校内で実施した。休校期間があり例年と同じ時期に実施することができず、業者を変更して、生徒にとって効果的なタイミングで受験できるようスケジュールを検討した。ありきたりなことだが、担任や学年が、生徒たちの進路への取り組みの情報交換をおこない、効果的な声掛けなどサポートしていたことが、大きかったのではないかと。生徒たちも真面目に授業に取り組み、不安に打ち勝つ気持ちがよく見て取れた。また、受験環境の変化も大きいように思われる。大学入学後の留学が全て中止になっていたのも、本校から希望の多い国際関係の学部・学科の希望者が減少し、広き門となったことも幸運であった。

- ：遅刻者の数が激減や、生活習慣の確立、学校生活を最後までしっかり送れたことも良い結果の一因であると考ええる。
- ：オンライン授業については、他校種でも課題になっている。高校での授業動画の配信の仕方や動画（データ）のボリュームなど、もう少し詳しく教えてほしい。
- ：コロナ関係での出席停止者に関しては授業をそのまま録画し、配信している。1ギガくらいの動画をGoogleクラスルームで送っている。家のWi-Fi環境についてはその都度確認している。一斉休校の時は、オンライン授業の時間割を作成し、動画ではなく課題を中心に進めている。動画を配信する場合は10分程度としている。
- ：肖像権の問題は？
- ：事前に全体に連絡をし、保護者に了解を得ている。後ろから撮るので生徒の顔は映らないようにしている。
- ：動画の配信の閲覧期間は？
- ：コロナでの欠席期間が終わって2週間をメドに削除している。考査時期を考慮して延長するときもある。
- ：「授業が分かりやすい」の肯定率の目標値をもう少し高く掲げてはどうか。また、自己肯定感を高めていくための取組みについて、どのような取組みがあるのか。
- ：目標値としては低いですが、それまでの数値を鑑みて、今の目標値になっている。また、授業づくりの改善や取組みは、ICTの有効活用・教員間の相互の授業見学で力を高めている。今年度は勉強会を実施したいと考えている。
- ：自己肯定感を高めるための取組みについては、行事やクラブ活動に力を入れて、生徒がそれらに参加することで達成感や旭高校での居場所を獲得できるように意識して指導を行っている。そういうことが自己肯定感につながると考えている。また同時に、「授業が分かる」ということも自己肯定感を高める重要なポイントである。授業の中で、「考えた」「分かった」「できた」という成功体験が増えるような取組みを行なっていきたい。
- ：生徒が興味を抱く授業を設定し、出来たことや分かったことをしっかり生徒に返していくことで、少しずつではあるが生徒の自己肯定感を高めていけると考える。「評価と指導の一体化」をより進めてもらいたい。
- ：校長と教頭とで授業見学を行なっている。「考えさせる活動がどれだけできているか」、「生徒に何を学ばせたいか」というねらいを持って授業を行っているかを、指標の1つとして掲げている。しかし、高校では全体的な傾向として、一方的な授業がまだ多いのが現状である。
- ：行事や国際交流に積極的に取り組みたくて入学してくる生徒が多いように思うが、コロナ禍でそういうことに制限がかかる日々が続いている。生徒のモチベーションはどうか？
- ：体育祭・遠足の延期があったが、3年生の中には受験に集中したいという理由から、中止で良いと考える生徒もいた。話し合いの中では、生徒の中でも意見が2分し、生徒会も意見をまとめるのが大変なようだった。
- ：体育祭についてはアンケートを実施し、生徒の意見を確かめた。延期すれば、進路準備や部活などと行事の取り組みが重なってしまうことに、迷う意見もあったが、行事を頑張りたい生徒は多かった。そこで、進路準備と行事の準備が両立できるギリギリの1学期中に体育祭を開催することで、3年生中心に頑張っているところである。
- ：体育祭の応援団を楽しみにしていたが、応援団を辞める生徒がいて残念がっていた。今の2年生が体育祭を体験していないので、自分が体験した感動を先輩として、後輩に伝えたいと意気込んで頑張っている。
- ：体育祭の応援のパフォーマンスは4つの団が例年競い合うのだが、準備期間が短かったり、後輩につなげるというところが大切なので、今年度は競争ではなく、各団が旭高校を応援するパフォーマンスとして取り組んでいる。
- ：体育祭は天候と熱中症の懸念があったので、場所も府立体育館で行うことにした。
- ：今の話を聞いて、生徒たちが旭高校の良き伝統を受けつがなければと感じている様子が見て取れる。このよ

うな気風を大事にしてほしい。

●：夏休みに生徒にワクチンという話があったが…？

□：生徒に対するワクチン集団接種の話は、府教育庁より一切降りてきていない。6月末のこの時点で何も連絡がないので、ないと思う。

●：オンラインでオーストラリアのアデレード高校や韓国の学校と交流を図っているのをHPでも拝見した。英語・韓国語以外の第2外国語でもこういう体験ができればと思う。暗唱大会以外にも、こうしたコミュニケーションが図れるような体験が増えるとよい。

□：時差の問題が少ない韓国やオーストラリアを選んだ。他の国は（時差の問題もあり）難しいと考えている。6言語の先生方は熱心に指導してくださっていて、検定に向けて生徒は意欲的に取り組んでいる。

●：授業でのグループ学習などは増えているのか。

□：コロナ禍で控えている教員もいるが、実施する教員が増えてきている。しかしまだまだ途上である。

●：大学生も、小中高で活発にグループワークをしてきたことが見られ、以前よりも上手に取り組める学生が増えた。高校でのグループワークの経験は大学での質の高い学びにつながっており、今後も重視してもらいたい。

6. 校長謝辞

省略

7. 事務連絡

次回以降の開催予定日時や内容の連絡